

令和4年度学校評価

1 はじめに

学校教育法 42 条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同 43 条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員やPTA代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立てている。

2 令和4年度学校評価の取組

(1) 令和4年度学校評価における課題と重点目標及び方策

対象者	課題	重点目標	方策
児童 生徒	学校生活の充実	安全安心に充実した学校生活が送れるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の推進を図る。	「実態表」を活用するとともに、教員間の連携を密にすることにより、個に応じた支援の検討および実践に努める。また、日常の関わりにおける観察より得られる児童生徒の状況や変容を把握し、日々の実践に活かせるよう努める。
保護者	情報の提供と保護者の交流	学校の様々な情報を発信することで、理解や参画を促す。保護者同士の交流をさらに図る。	各部、各校務部と連携し、保護者の要望に応じた情報提供や理解啓発への取組を図るとともに、保護者同士の交流が活発になるよう方法を工夫する。
医療 機関	情報交換と連携	様々な機会を捉え、適切な方法で情報交換を行い、連携の充実を図る。	児童生徒の主治医が属する医療機関との連絡や情報交換が円滑に行えるよう努め、医教連携の強化を図る。医療センターにおいては、CNT会等により各病棟との情報交換を適切に行う。
教職員	授業改善と教職員の専門性向上	児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める。	業務の効率化により授業改善に必要な時間を確保し、児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるための教員研修を充実させるとともに、ICTを活用した効果的な学習の推進を図る。さらに、部会やグループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となって指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

① 学校評価の方法

上記の「令和4年度学校評価における課題と重点目標及び方策」をもとに、各部の経営方針及び各校務部の経営計画を決定した。職員会議での周知を経て、教職員共通理解のもと、今年度の教育活動や学校運営に取り組んだ。それらの評価については、12月初めに生徒（中学部・高等部）、保護者、教職員、1月に四国こどもとおとなの医療センター職員を対象とするアンケートを実施し、その結果を集計、分析したものをもとに自己評価としてまとめた。2月22日、学校関係者評価委員会において自己評価を報告し、学校評議員及びPTA代表者から意見を聴取したうえで評価結果を取りまとめる。そしてこれらを参考に、今後の教育活動や学校運営の改善に向けて、令和5年度の重点目標及び方策を策定していく。

② 学校評価の年間スケジュール

月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ クル で 実 施	学校評価委員会設置【校長・教頭・部主事・各校務部長】 運営委員会 職員会議で今年度の「課題と重点目標及び方策」について説明
5月		令和4年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		第1回学校評価委員会 令和4年度学校評価計画及び実施に関する検討 職員会議で令和4年度学校評価計画及び実施に関する周知 第1回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等 （1月に同じアンケートを実施）
7月		第1回学校評議員会 各部経営計画、校務部経営計画、評価項目等説明、授業見学等
10月		第2回学校評価委員会 「学校評価アンケート（生徒・保護者・医療センター・教職員対象）」項目の検討 企画運営委員会及び職員会で学校評価アンケート実施について説明
12月		「学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員対象）」実施、集計
1月		「学校評価アンケート（医療センター対象）」実施、集計 各学部・校務部で「学校評価アンケート」集計結果の分析等 第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等 第2回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等
2月		学校関係者評価委員会【学校評議員、PTA会長・副会長】 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		職員会議で学校評価結果報告 学校評価の結果公表（学校ホームページ） 学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

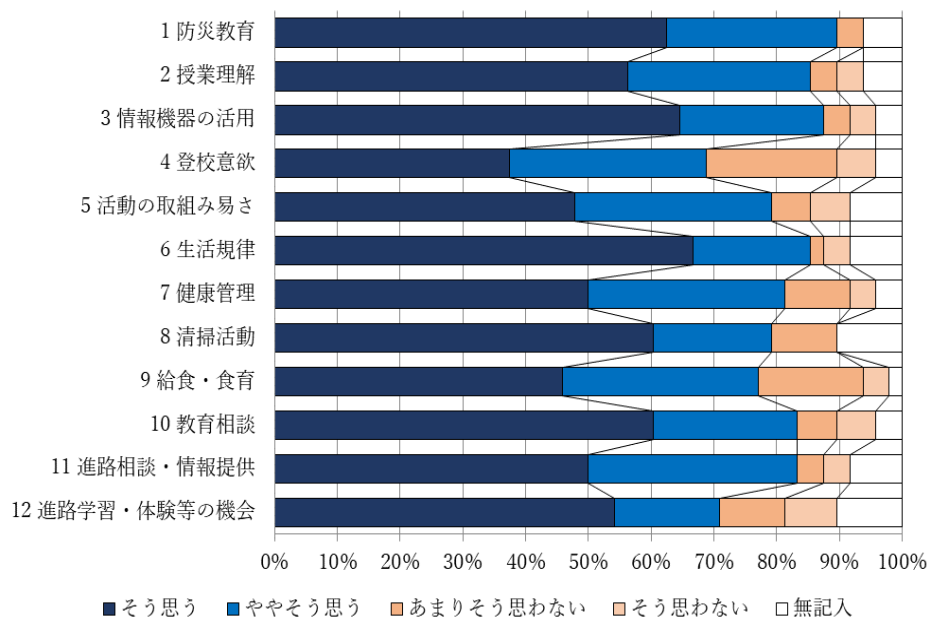
3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

<生徒>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは、授業や避難訓練、防災コーナーを通して、防災の大切さが分かりましたか。	防災教育
2	授業は、分かりやすく工夫されていますか。[例:テレビやタブレット型コンピュータを活用し、内容が理解しやすい。整理された振り返りしやすい板書である。等]	授業理解
3	あなたは、パソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどの機器を使った授業を受けて、分かりやすかったですか。	情報機器の活用
4	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	登校意欲
5	サークル活動、委員会活動、学部集会は、みなさんの意見を取り入れて、参加しやすいですか。	活動の取組み易さ
6	先生は、あなたの生活態度や社会ルールを守ることにについて教えてくれていますか。	生活規律
7	あなたは、手洗い、歯みがきなどをして健康に気を付けていますか。	健康管理
8	あなたは、掃除の時間に、自分の清掃区域をきれいにしようと努めていますか。	清掃活動
9	あなたは、給食や食べ物に関心をもっていますか。	給食・食育
10	あなたは、生活や健康、勉強、進路等について相談できる先生がいますか。	教育相談
11	学校は、進路選択に関する相談や情報の提供をしていますか。	進路相談・情報提供
12	学校は、進路選択に関する学習や希望する進路先の見学や体験の機会を設定していますか。	進路学習・体験等の機会

生徒（配付51 回収48 回収率94.1%）

「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合（学部別）（%）



質問	中	高
1	85.7	92.6
2	81.0	88.9
3	85.7	88.9
4	81.0	59.3
5	76.2	81.5
6	85.7	85.2
7	76.2	85.2
8	76.2	81.5
9	71.4	81.5
10	85.7	81.5
11	81.0	85.2
12	61.9	77.8

全体では「そう思う」「ややそう思う」が80.6%である。最も数値が低いのは「4 登校意欲」(68.8%)であり、高等部 59.3%、中学部 81.0%と、高等部にその傾向が強い。教職員は児童生徒の心理状態をより理解し、必要に応じて主治医の意見も聞きながら、登校したいと思える状態に近づけるよう、今後でも対応していく。

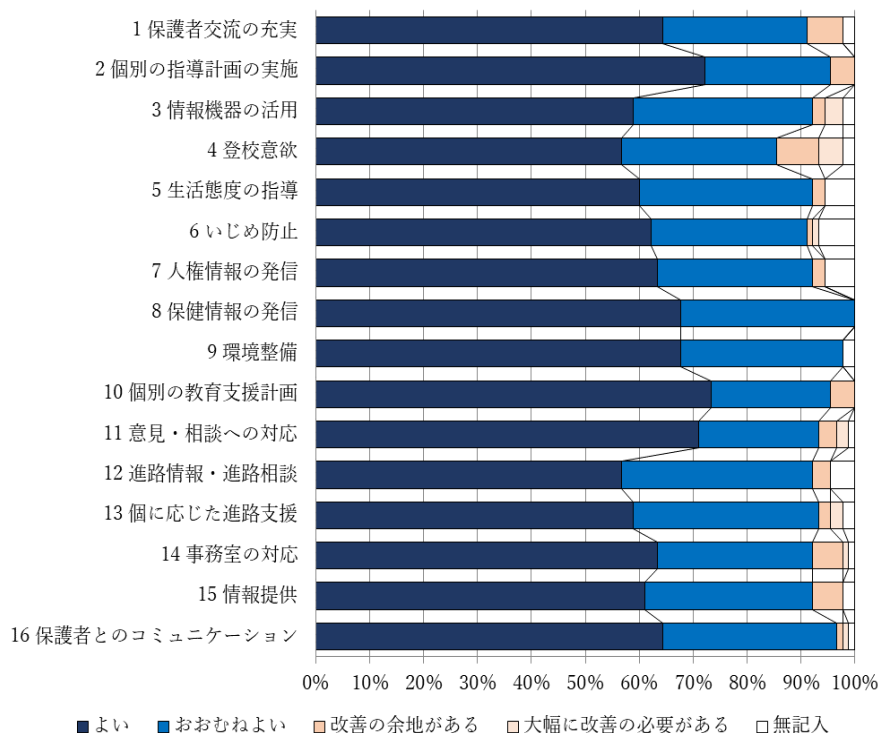
「11 進路相談・情報提供」(83.3%)については、昨年度の75.0%から大きく改善された。しかしながら、中学部の「12 進路学習・体験等の機会」の評価は低い(61.9%)。キャリア学習の捉え方を再確認し、実施を検討していく必要がある。

昨年度と比較して評価が上がった項目に「3 情報機器の活用」(87.5%)がある(昨年度 82.7%)。パソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどの機器を使った授業は分かりやすかったと評価が高い。これは、「2 授業理解」(85.4%)の評価の高さにもつながっている。

＜保護者＞

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	保護者交流の充実
2	個別の指導計画について、十分な説明がされていますか。	個別の指導計画の実施
3	学校は、児童・生徒の実態に合わせて、授業や行事でパソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどを活用していましたか。	情報機器の活用
4	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	登校意欲
5	教職員は、お子さんの生活態度や社会ルールを守ることにについて指導していますか。	生活態度の指導
6	学校は、「いじめ防止基本方針」に基づいて、お子さんが安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
7	学校は、人権や人権問題についての情報を適切に提供していますか。	人権情報の発信
8	学校は、おたより等を通して、保健や食育に関する情報を分かりやすく伝えていますか。	保健情報の発信
9	学校内の清掃は、行き届いていますか。	環境整備
10	学校は、お子さんの「個別の教育支援計画」を本人・保護者の願いに基づいて作成し、適切な支援を行っていますか。	個別の教育支援計画
11	学校は、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	意見・相談への対応
12	学校は、「進路だより」や掲示板、キャリア支援室を活用して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路情報・進路相談
13	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
14	事務室窓口や電話の応対、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
15	学校は、保護者が求めている情報を提供できていますか。	情報提供
16	学校は、保護者のみなさんとコミュニケーションをとることができていますか。	保護者とのコミュニケーション

保護者(配付114 回収90 回収率78.9%)



「よい」「おおむねよい」と回答した
保護者の割合（学部等別） (%)

調	小	中	高	院内
1	90.9	95.8	86.7	92.9
2	100.0	100.0	86.7	100.0
3	95.5	91.7	86.7	100.0
4	90.9	79.2	83.3	92.9
5	86.4	100.0	93.3	95.7
6	86.4	95.8	93.3	85.7
7	86.4	95.8	93.3	92.9
8	100.0	100.0	100.0	100.0
9	95.5	100.0	100.0	92.9
10	95.5	100.0	90.0	100.0
11	86.4	100.0	90.0	100.0
12	86.4	95.8	93.3	92.9
13	90.9	95.8	90.0	100.0
14	90.9	91.7	93.3	92.9
15	90.9	100.0	86.7	92.9
16	95.5	100.0	96.7	92.9

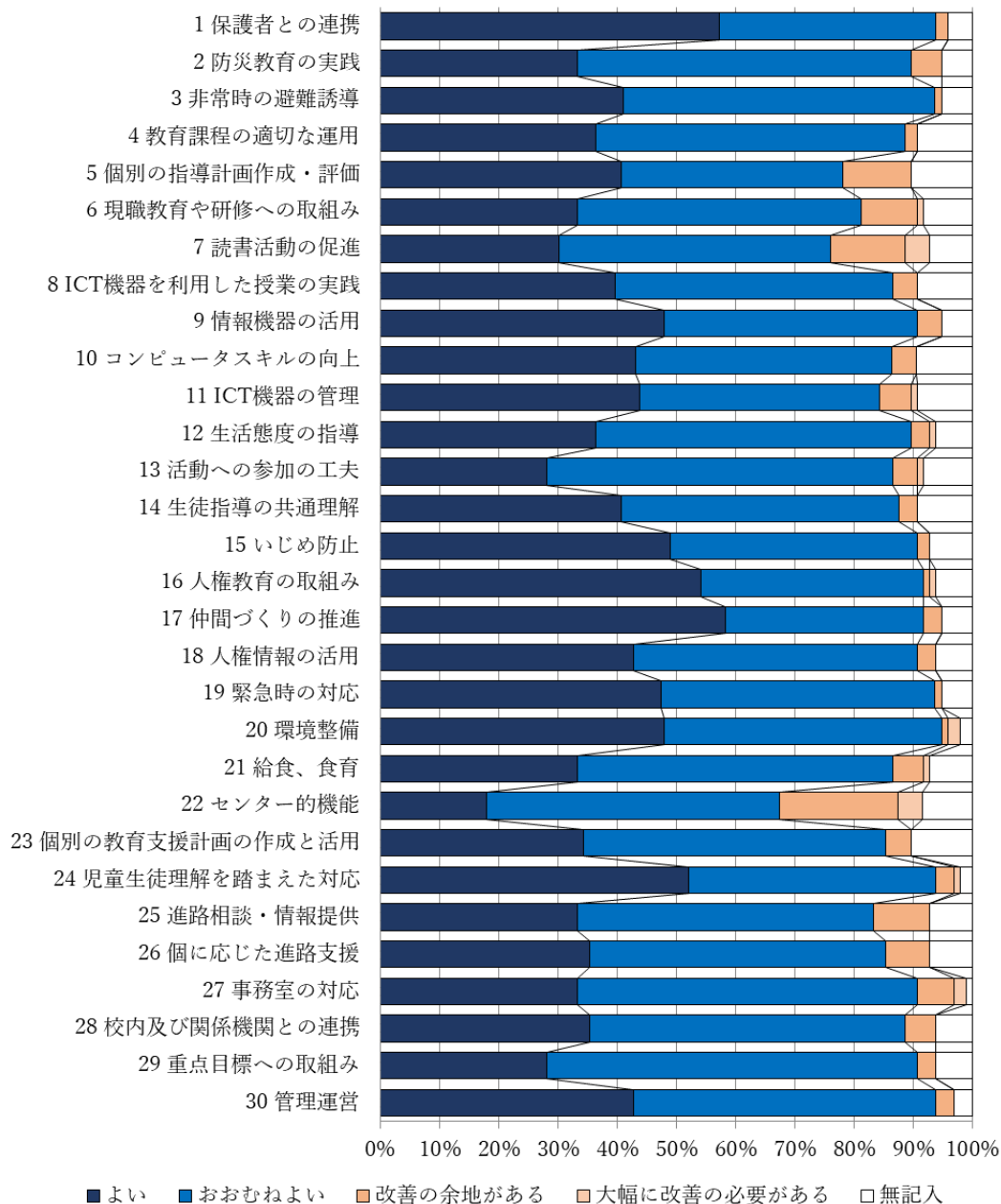
全体としては「よい」「おおむねよい」が9割以上(平均値 93.3%)を占めている。特に「8 保健情報の発信」は100.0%であり、保護者の必要とする児童生徒の健康情報を伝えることができていること、特に医療的ケア対象児については日々の細やかな健康情報を共有できていること、さらには感染者発生情報やたより等での周知等が高評価につながっていると考えられる。

一方、「4 登校意欲」は昨年度の81.3%より若干の増加はみられるものの、85.6%と最も低く、中学部(79.2%)、高等部(83.3%)にその傾向が強い。学校はより保護者と連携し、児童生徒一人一人の課題に応じた丁寧な指導や支援を行う必要がある。

＜教職員＞

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは保護者に対し、学校行事や学習状況について様子を伝えるなどして連携に努めていますか。または、働き掛けに協力ができていますか。	保護者との連携
2	あなたは、児童生徒の実態に応じた防災教育に取り組んでいますか。または取り組みに協力ができていますか。	防災教育の実践
3	あなたは非常時に、児童生徒を安全に避難誘導することができますか。	非常時の避難誘導
4	個別の指導計画や学習指導計画を活用し、PDCA(計画・実施・評価・改善)を行って、授業に反映することができましたか。	教育課程の適切な運用
5	指導要録や個別の指導計画の手引きや用字用語集を活用し、作成することができましたか。	個別の指導計画作成・評価
6	キャリア形成のための各教科等の指導に向けて、専門性や資質向上のために現職教育や研修に積極的に取り組んでいますか。	現職教育や研修への取り組み
7	あなたは学校生活や授業の中で児童生徒の読書活動を促していますか。	読書活動の促進
8	あなたは授業の中で、ICT 機器を適切に活用できていますか。	ICT 機器を活用した授業の実践
9	あなたは、学校でパソコンやタブレット型コンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、必要に応じて使うことができますか。	情報機器の活用
10	情報研修会や情報メディア部だよりは、教職員のコンピュータスキル向上に役立っていますか。	コンピュータスキルの向上
11	情報メディア部は、ICT 機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	ICT 機器の管理
12	あなたは、児童生徒の生活態度や社会ルールについて、卒業後を見据えた指導をしていますか。	生活態度の指導
13	あなたは、サークル活動、委員会活動、学部集会に児童生徒の意見を取り入れて、参加しやすいように工夫していますか。	活動への参加の工夫
14	各部会等で、生徒指導に関する情報交換や具体的な指導方法が協議されていますか。	生徒指導の共通理解
15	あなたは、「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
16	あなたは、児童生徒の自尊感情や人権感覚が育つように意識して指導していますか。	人権教育の取り組み
17	あなたは、児童生徒が他の児童生徒、教員との関わりを通じて成長できるように働き掛けをしていますか。	仲間づくりの推進
18	あなたは、人権や人権問題に関する情報を児童生徒の指導に役立てていますか。	人権情報の活用
19	あなたは、児童生徒の病状について周りの人と情報を共有し、緊急時に適切な対応ができるようにしていますか。	緊急時の対応
20	あなたは、校舎内外の清掃活動や環境整備に努めていますか。	環境整備
21	あなたは、給食や食育に関して理解に努め対応していますか。	給食、食育
22	あなたは、小・中学校等の教員への相談支援・指導・情報提供等センター的機能を果たしていますか。	センター的機能
23	あなたは、活用マニュアルや記入例を基に、児童生徒の実態や本人・保護者の願いに応じて「個別的教育支援計画」を作成し、適切に支援をしていますか。	個別的教育支援計画の作成と活用
24	あなたは、児童生徒の病気や障害特性の理解に努め、対応していますか。	児童生徒理解を踏まえた対応
25	学校は、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路相談・情報提供
26	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
27	事務室の窓口や電話の応対、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
28	あなたは、教職員や医療及び福祉等の関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	校内及び関係機関との連携
29	あなたは、学校評価の重点目標を達成するために、「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取り組みができていますか。	重点目標への取り組み
30	あなたは、教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処ができていますか。	管理運営

教職員 (配付96 回収96 回収率100.0%)



「よい」「おおむねよい」と回答した項目の平均値は 87.7%(昨年度 86.7%)である。特に、「3 非常時の避難誘導」「19 緊急時の対応」「20 環境整備」「30 管理運営」等、危機管理に関する内容については自己評価が高い。防災訓練や緊急時対応訓練を定期的に実施したり、日々の学習活動において安全な環境への配慮を行ったりするなど、病弱の児童生徒の命を預かっていることについて、教職員の意識は高い。

本校の教職員の課題は「授業改善と専門性の向上」である。授業改善の方策として ICT の活用があるが、「8 ICT 機器を利用した授業の実践」について「よい」「おおむねよい」と回答した教職員は、82.4%(事務職員と学校看護師を除く教員では 95.4%)であった。特別支援学校においては、障害による学習上または生活上の困難さを改善・克服するためにもその活用は有効である。今後さらに研究と実践を積み重ねていく。

専門性の向上については、「24 児童生徒理解を踏まえた対応」が 93.8%と、病気や障害特性の理解に努めて対応していると評価した教職員が多い。しかしながら、「6 現職教育や研修への取り組み」は 81.3%であり、取り組み意識の不十分さも見える。校内研修だけでなくオンライン研修の受講等により専門性の向上を図る。

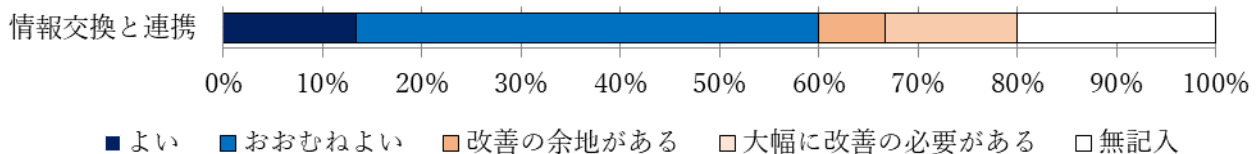
なお、無記入の回答がみられるのは、事務職員や学校看護師に対しても同じ内容のアンケートを実施しており、関わりのない項目についての回答を避けるため、無記入を選択している。

<医療機関（四国こどもとおとなの医療センター）>

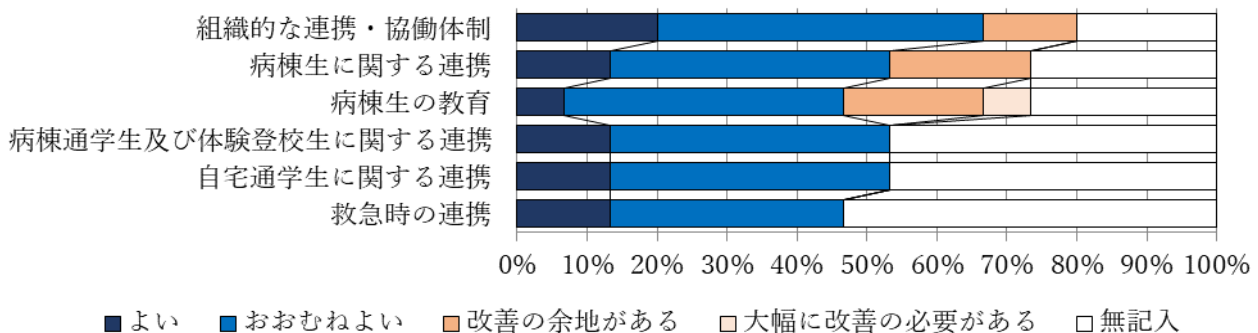
質 問 事 項	評 価 項 目
学校は、児童生徒の教育や療育について、病院と適切に情報交換を行い、連携を図ることができていますか。	情報交換と連携

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	病院と学校の組織的な連絡・協働の体制は、現状どおりでよいですか。 (定期的に行事予定やたより等を配付、必要に応じてDNTを開催 等)	組織的な協働体制
2	病棟生の教育や療育について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、CNT 会 等)	病棟生に関する連携
3	病棟生への教育の方法について、現状どおりでよいですか。 (感染状況に応じた対面及びリモート授業、季節の掲示物 等)	病棟生の教育
4	病棟からの通学生や体験登校性について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、医教連携簿、カンファレンス 等)	病棟通学生・体験登校生に関する連携
5	自宅から本校への通学生について、主治医、保護者、担任と連携を図ることができていますか。	自宅通学生に関する連携
6	学校は、児童生徒の病気やけが等の救急時に病院と連携を取り、適切な対応ができる体制がとれていますか。	救急時の連携

四国こどもとおとなの医療センター（配付16 回収15 回収率93.8%）



【連携等の詳細】



注)職務に関係ない内容やケースがない場合は「無記入」を選択している。

医療センターとの情報交換と連携について「よい」「おおむねよい」との回答は、75.0%（無記入を含まない）であった。「病棟生の教育」については、現在、感染対策によりリモート授業を実施しているが、回答のあった11名のうち3名は「改善の余地がある」、1名は「大幅に改善の余地がある」と回答している。「withコロナに向け、授業方法の検討していく必要がある」「月3回の先生が訪問しての授業の時、子どもたちは普段より良い反応を見せてくれている。もっと先生方の訪問の回数を増やしてほしい。ご家族も訪問の授業をしていること喜ばれている。」とのご意見もいただいている。

来年度、新型コロナウイルスに対する教育活動の制限は大幅に変更される。院内授業については、必要な感染対策を行ったうえで可能な限りの授業を行えるよう、学校と医療センター関係者で検討を進めたい。

4 学校評議員及び学校関係者評価委員会

令和5年2月22日に学校評議員及び学校関係者（PTA会長及び副会長を含む学校関係者）による評価委員会を実施し、以下のような意見を得た。これらの意見を踏まえ、次年度の教育活動の改善に活かす。

- ・コロナ禍で多くの制限がある中でも、工夫して先生方が熱心に子どもたちを育まれている。数々の文化活動で全国に通じる賞を受賞するなど、子どもたちの活躍も素晴らしい。
- ・中学部高等部生徒アンケートで気になるのは、「登校意欲（学校に行くことが楽しいですか）」という質問に対する評価が、やや低いことである。多感な時期であり、単純に楽しいとは言い難い心理状態もあろう。不安定な心理状態となる理由を把握し、学校に行きたいと思わせる魅力ある学校づくりを引き続きお願いしたい。
- ・心が安定しない児童生徒にとって、安心できる場所や人の存在は大切である。先生方がその役割を果たしている。また、いつでもだれでも相談できる場所「ほっとルーム」の存在も大切である。
- ・ICTの活用により授業が分かりやすかったと、生徒の評価が高い。児童生徒がタブレット端末を使って授業を受けたり、学校を休んだ児童生徒と教室とをリモートで繋いだり、近隣の学校とリモートで交流学习を行ったりするなど、様々な活用がされている。今後、病弱児の遠隔授業による学習の保障をさらに進めてほしい。
- ・今やSNSの利用は日常的に行われているが、誤った利用方法によるトラブルが危惧される。適切な利用についての学習や指導を引き続きお願いしたい。
- ・就職や進学など卒業に伴う環境の変化は、子どもにとって大きな不安要素であり、つまりく子もいる。福祉機関にも相談をするが、子どもにとって安心できるのはやはり学校の先生。卒業後の支援を充実していただけるとありがたい。
- ・子どもの健康管理に関する保護者アンケートの評価が高い。医療的ケアについては、親以上に丁寧に健康管理をしてくださり、安心して学校に送り出すことができている。
- ・子育てに悩んだときに、保護者同士で話をして心が救われたことがある。コロナ禍で保護者交流の機会が減ったが、今後は感染対策も少しずつ緩和される見込みである。対面での交流の機会が増えていくことを望む。

5 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
総務部	・保護者との連携及び保護者のPTA行事への参加や保護者同士の交流の促進 ・防災教育の実施と災害時の避難体制の確立と充実	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、PTA総会は書面審議となったが、6月の保護者交流会でPTA役員の紹介や教育方針や経営などについて周知した。10月には保護者交流会と障害者扶養共済制度の説明会を開催。はなみずきの会(保護者会)から卒業生保護者に参加してもらい、大変好評であった。PTA研修視察は現地集合現地解散とし、日時をずらして実施するなど感染対策をとることで4か所の事業所を見学することができた。3学期には書面での保護者交流を行う。 ・昨年度より学校HPにPTA関連事項を掲載しており、今年度もPTA行事の報告を随時更新した。 ・関係各機関の立ち合いで、年2回の防災避難訓練（①火災 ②地震・水害）および防火扉体験、起震車体験を行い、体験すること、繰り返し訓練を行うことが重要だと感じた。また、防災職員研修では、校内の防災設備等の確認や図上訓練（地震・水害・火災）を行い、参加した職員が各グループで研修報告することで、全職員の共通理解と防災意識の向上を図った。 ・通学生（病棟からの通学生を除く）の防災リュックは学期末懇談会において、保護者に非常食等の使用期限の確認をしてもらった。また、今年度初めて、職員用の防災備蓄品を還元し、ローリングストックを行った。 ・9月と1月の防災週間に合わせて「防災コーナー」を設置し、防災クイズ、ハザードマップなどの掲示を通し、防災教育の啓発に努めた。情報端末機器を設置したところ、児童生徒がハザードマップで居住地の被害予想を調べている様子が見られた。また、児童生徒の実態に応じ、各教科等で防災に関する学習を充実させ、防災意識の向上に努めた。 ・災害用伝言ダイヤル体験に合わせ、保護者と教職員への体験案内を呼び掛け、教頭が録音したメッセージを聞いてもらった。 ・引き渡し訓練は、令和2年度まで小・中学部、高等部の二つに分けて隔年で行っていた。しかし、昨年に引き続き、今年度も1学期末懇談時に担任が模擬で引き渡し手続きの事務を確認したが、保護者とのやり取りから、土砂災害や洪水等の場合、スムーズに迎えに来ることが難しい場合があるということが分かった。令和5年度は、引き渡し訓練を再開したいと考えている。	・保護者へのPTA活動参加の啓発 ＊学校HPにPTA行事について掲載 ・保護者同士の交流促進 ＊コロナ禍での保護者交流会、研修会等の工夫 ＊保護者交流の場の提供 ＊はなみずきの会との連携 ・防災教育の充実 ・災害時の避難体制の充実と徹底 ＊防災避難訓練の実施と防災計画の確認 ・防災備蓄品の充実 ＊関係機関との連携 ・引き渡し訓練の実施 ・ショート訓練

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
教務部	・教育課程の適切な運用による児童生徒の実態に合った授業の工夫 ・諸表簿等の正確な記載と合理的な処理	・R4年度高等部入学生から新教育課程の運用を実施したが、より生徒の実態に合った教育課程という視点で、再度教育課程についてPDCAを行い、履修科目の変更を検討した。また、新課程用の通知表様式や観点別学習評価を行う上で、必要な評価規準について、高等部1組グループを中心に検討し、適切な評価を行っていくための評価規準を作成した。 ・教育課程振り返りアンケートの実施や学習指導年間計画を活用し、教職員に振り返りの機会を設け、PDCAサイクルを意識できるよう働き掛けた。 ・授業改善と授業力向上のために、各自で作成したデジタル教材等をNAS上に保管し、共有できるよう整備しているところである。 ・教員の困り感を削減し、諸表簿の正確な記載と統一を図っていくために、昨年度見直した手引きや本校独自の用字用語集を活用してもらった。学期末に実施したアンケートをもとに、用字用語集を更新する予定である。	・新学習指導要領に基づいた教育課程を運用し、より一層児童生徒の実態に合った授業を実施し、観点別学習評価を行う。 ＊各学部で教育課程のPDCAサイクルの実施。 ＊教育課程振り返りアンケートの内容を検討する。 ＊デジタル教材等を活用してもらえるよう働き掛ける。 ・個別の指導計画や諸表簿等の手引きと本校独自の用字用語集の活用により、より一層正確な記載を心掛ける。 ＊部会、グループ会等で活用について呼び掛ける。
研究部	・目標を明確にした指導の中でのICT機器の適切な活用 ・読書活動の推進 ・自立活動に関する指導、実践の専門性の向上 ・専門性を高めるための授業公開や研修会の実施と紹介	・教員がICTの活用法を知り、授業を通じてICT活用のスキルの向上を図ることができた。 ・児童生徒が参加しやすいように「おはなしタイム」を部集会の時間等に設けた。その結果多くの参加ができ、充実した「おはなしタイム」を実施することができた。 ・「図書だより」の定期的な発行や、日報でのお知らせ等で図書室の本を利用するよう促すことができた。 ・自立活動学習会に参加したり、教員同士が情報交換したりすることで自立活動に関する指導、実践の専門性の向上に努めることができた。 ・コロナ禍で授業公開や研修会への参加は難しかったが、長期休業中の研修会の参加や校内研修については積極的に参加することができた。	・ICT活用法について、さらに研修を深める。 ＊ICT活用法について情報をまとめた事例集を作成し、活用できるようにする。 ・図書室の活用への意識の向上 ＊新しい取り組みや、今の取り組みの改善・工夫点の検討 ＊部集会等への協力を呼び掛ける。 ＊学年会、グループ会等を通して児童生徒の共通理解を図る。 ＊校内・県内外の研修会等の職員への周知、自己研修の機会の提供

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
情報メディア部	・ICT(情報通信技術)を活用した授業や、i P a dでのA T(支援技術)を活用できる教員を育成する。 ・インターネットを経由した双方向通信での遠隔授業や、職員会議、卒業式などの各種行事の実施方法について検討・実施する。	・夏季情報研修ではビデオ編集、Photo Shopを使用した写真加工だけではなく、今年度はi P a dを各自使用して、ロイロノートスクールの体験を行った。実際に児童生徒の立場になって、教師から配信されるノートや画像などを受信して、自己紹介を入力したり、完成したノートを提出したりした。研修に取り組む姿に教員の熱意を感じた。効果的な授業を実践するためのICT活用技術の取得について、手応えを得ている。 ・定例職員会議だけではなく、一部の教職員研修や終業式、始業式、部集会などの行事も、Z o o mによるリモートでの実施となった。昨年度から引き続いての実施となったため、配信側のセッティング等準備・片付けもかなりスムーズになった。教室など受信する側もかなり慣れてきた様子が見られ、音声途切れるなどの不具合が時々見られるものの、ほぼ問題なく実施できるレベルになってきた。	・放課後実施した、少人数での研修など、少しずつだが成果が出始めて、ロイロノートを使用してみたい、実際に授業で使用し始めた教員が増えてきた。引き続き継続して行いたい。 ＊特定の教員に、研修の参加者が偏っているため、参加者数を拡大するための啓発を行う。 ＊全職員がZ o o mのログインなどの操作が可能な状況を目指して、研修の実施。
生徒指導部	・自尊感情や自己存在感を高められるような、充実した特別活動やサークル活動を推進する。 ・よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う。 ・問題行動等の未然防止や早期解決のための体制づくりをする。	・昨年度は制限が余儀なくされ回数が少なくなっていたサークル活動や委員会活動が、今年度はほぼすべて実施することができた。児童生徒会主催の行事も、対策を工夫しながら、生徒が主体的に活動し実施することができた。 ・集団への参加を苦手とする児童生徒に対して、集団適応性や社会性を身に付ける機会を設けることについては課題が残るが、学部集会など学部全体の行事などの際にはルールやマナーについて指導する機会をもつことができた。担任も学校生活全般で機会をとらえて粘り強く指導することができた。 ・保護者や児童生徒、教員からの情報をグループや学部内で共有し、担任が必要な場面で児童生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら指導し、早急に対応することで大きな問題に発展することはなかった。	・自尊感情をさらに高めるための支援や活動形態の工夫 ＊サークル活動の成果を発表する機会を設ける。 ・継続実施 ＊社会性を身に付けるためには校外での体験や学習の機会が有効。学校外の人との関わる機会をもっと増やす。 ・教員、保護者、生徒間での情報共有の継続

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
人権・同和教育部	・人権教育への取り組み ・仲間づくりの推進 ・人権情報の活用	・職員の人権意識向上のため、全員に人権感覚チェックを実施し、児童生徒に接する態度を振り返ると同時に、児童生徒の人権感覚を育成するための研修の機会とした。結果としては各学部とも人権感覚について高い評価が出ており、人権意識を高くもって児童生徒に接することができていると思われる。 ・共同で人権展の作品づくりをすることによって、児童生徒の交流を図ることができ、仲間づくりをしていくことができた。 ・各行事などでグループ間交流をすることにより、お互いを認め合うことや会話の大切さを児童生徒に感じさせることができた。 ・職員研修では地元隣保館の四人研大会発表内容をしていただき、現在の地域における現状情報を知ることができた。 ・イベント・人権講演などの情報や人権啓発のポスターを校内掲示することにより、人権問題について考える機会をつくることができた。	・継続実施 ＊人権感覚チェック項目の再検討 ・自他を認める人権意識の高揚に向けた支援の工夫と継続 ＊交流推進の場面や状況設定の工夫 ・研修の人権課題と講師の選定を早く行う。 ＊「心のとびら」や職員研修による詳しい情報提供と啓発
保健・環境部	・児童生徒の生活習慣の改善と保護者、職員への情報発信 ・緊急時対応訓練、医学講座など、研修の内容や方法の工夫 ・校舎内外の環境整備 ・食に関する指導を推進するための情報発信	・児童生徒保健委員会で歯磨きや換気、手洗い等の校内放送を呼び掛け、保健衛生調べを行った。歯磨きについては6月より11月の方ができた割合が多くなり習慣化につながっている。児童生徒の病状に必要な情報や医ケアについて、必要に応じて保護者や職員と話し合う場を設け、共通理解を図った。 ・緊急時に対応できるよう内容を工夫して訓練やシミュレーションを行ったことで、職員間でより共通理解をすることができ、それぞれが危機意識をもって対応するようになってきている。また、児童精神科医療について医学講座を行い、児童生徒の病状について理解し、日頃の対応や支援に結びついている。 ・清掃用具の整備により、毎日の清掃の時間は児童生徒、職員全員で清掃に取り組めており、校内が清潔に保てている。また、月1回の外回り清掃が、ほぼ実施できた。 ・献立表や給食掲示板で、給食メニューに関係する豆知識を毎日お知らせした。食育だより、もぐもぐ掲示板に加えて、給食掲示板を作り、食に関する情報を発信したことで、興味をもって見てもらえた。	・保健に関する関心の向上 ＊保健衛生調べの目標や実施方法の工夫 ・医学講座、緊急時対応訓練等の内容の充実 ＊医学講座、緊急時対応訓練等の実施回数や内容の検討 ・校舎内外の環境維持 ＊外回り清掃の予備日を設定 ＊児童生徒、教職員への清掃啓発 ・食に関する関心の向上 ＊給食時間や献立など、給食を楽しめる工夫 ＊たよりや掲示板の内容の充実

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
教 育 支援部	・校内の相談支援の充実 ・教員の専門性の向上 ・「個別の教育支援計画」及びサポートファイル「かけはし」の作成推進 ・地域への理解啓発・情報提供や教育相談の充実	・「ほっとルーム」の運営については、今年度も多くの職員の支援を受けながら相談事業を続けられた。利用者の減少傾向も続いている。 ・座談会は3回実施することができた。参加者は少ないものの、自身の経験談をもとに保護者から出た疑問や不安への解決策を話し合うことができていた。 ・スクールカウンセラーとの教育相談を希望する児童生徒・保護者・職員をつなぐことができた。スクールカウンセラーと連携して、それぞれの相談内容への対応もすることができた。 ・校内の児童生徒・保護者・職員からの相談が年々増加してきている。相談することでの不安感の解消を図ることができた。 ・校外からの相談件数も年々増加してきている。Webを活用した教育相談も実施でき、相談内容への具体的な支援方法の提示などの対応することができた。 ・Webを活用したオンライン教育相談会を実施した。4件の相談依頼があり、教育支援部員全員で質問に対する対応を行った。参加者からは、質問に対して具体的に様々な角度や視点からの助言を聞くことができて参考になったとの感想をいただくことができた。 ・事例検討会では、各学部から1事例ずつ出してもらい学部を超えての意見交換を実施することができた。学部をまたいで考えることで、以前の姿と今の姿の違いや今後の方向性を全員で共有することができていた。 ・児童生徒の思いや保護者の願いを確認しながら、今対応すべきことやこれから考えていくことなどを具体的な支援方法で考えることができていた。 ・教育相談や教具の貸し出し、参考資料の提供などを実施することができた。	・ほっとルーム運営に関わる職員の安定確保 ＊相談支援事業に対する校内職員への協力依頼 ・保護者のニーズを吸収した座談会テーマの検討 ・SCとの連携の継続 ＊定期的なSCとの情報共有の実施 ・相談に対応できる教員の養成 ・Webを活用した教育相談方法の検討 ・相談会の周知方法の検討（メールの活用） ・相談に対応できる教員の不足 ＊相談に対応できる教員の研修と育成 ・ケースの抽出における困難事例の把握方法 ＊学部間の連携を考えた会の運営 ・福祉機関との連携方法の検討 ・関係機関との連携（ケース会議）の進め方の検討 ＊他の分掌との連携を強化 ＊情報発信の継続

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
進 路 指導部	・保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けの強化 ・教職員に対して各種進路情報の提供及び他校務部との連携の強化 ・関係機関との連携の強化	・全体に改善は見られたものの、小学部の評価が昨年度より少し下がっている。児童を対象としたサービスも向上しており、その分ニーズも高まっていると思われる。 ・教職員で共有すべき情報や最新情報は、できるだけ早く伝えられるよう日報やお知らせフォルダを活用して周知した。しかし、有効に活用したか否かは検証できておらず、課題が残る。 ・概ね連携できた。	・保護者の希望にあった情報の提供 ※引き続き情報を提供するとともに、関係職員とは個別に話をし、確実に情報共有・連携できるようにする。 ※引き続き進路指導主事以外の職員も積極的に関わり、連携の強化を図る。
小学部	・重点目標への取り組み ・学部内及び関係機関との連携 ・管理運営面	・常にグループでも話し合う態勢ができており、日々効果的な指導の在り方を検討しながら、授業を行ってきた。また、実態表や学校生活の関わり等から個別の指導計画の目標や手立て、評価が児童に適切であることを学級の教員やグループ主任、部主事等の複数の目で確認してきた。コロナ禍で感染状況に応じた行動基準のもと、学級では、知恵と工夫で学習を進め、児童の一人ひとりの成長を促すことができた。 ・グループで情報交換を行い、複数の目で児童への支援や手立て等を検討、改善しながら取り組んできた。また、『みんなで小学部全体を観る』という意識を全員がもてるよう、知り得た情報は、部会やグループ会、朝礼、日々の会話のなかで互いに共有している。小学部全体を意識し、より円滑に部を運営できるようグループ主任会を行い、協力体制のもと進めてきた。また、必要に応じて病院や関係諸機関につないだり連携したりして、児童を取り巻く環境も含めてサポートしてきた。 ・環境整備や安全対策について確認し合うことで、適時に対処して整備している。	・専門性の向上 ＊効果的な指導の在り方を追求 ＊チェックリストの活用 ・連携の強化 ＊保護者から情報収集 ＊職員共有 ＊適宜グループ主任会の実施 ＊毎月１回ＣＮＴ会(病棟との連絡会)の実施 ＊必要に応じカンファレンス、ケース会の実施 ・継続実施

分掌等	重 点 目 標	評 価 結 果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
中学部	・重点目標への取組み ・学部内の情報交換と連携 ・管理運営面への意識	・生徒一人一人の病気や障害特性の理解に努め、個に応じた指導や支援が行えるよう学級、グループ、学年、学部全体で共通理解を図り、日々の指導にあたっている。 ・保護者との情報共有はもちろんのこと、校内だけでなく、医療センターをはじめとする関係機関との連携を密にしながら、課題に対応している。また、関係の小・中学校、特別支援学校とも情報交換を行い、スムーズな移行につなげた。 ・センター的機能を果たしているという教職員の自己評価項目が低く、次年度の活動を考えていく必要性を感じた。 ・進路選択に関する学習について、生徒の評価が低かった。キャリア学習の捉え方を再確認し、実施していきたい。 ・今年度もグループ会、部会等で常に情報交換を行って、細かな連携を図った。また、定期的にグループ主任会をもち、共通理解を図ったり、グループを超えた協力体制の構築を図ったりするなど中学部全員で生徒の指導に当たっている。 ・感染症予防の意識を常にもち、消毒や換気など安全管理に積極的に取り組んでいる。	・授業改善 ＊指導内容・指導方法・指導体制の改善 ＊職員と生徒ともに進めるキャリア学習 ・情報共有に基づく連携 ＊生徒・保護者・職員間での情報共有 ＊必要に応じた関係者会の実施 ＊職員間の協力体制 ＊関係小中学校との関わり ・感染症予防への取組
高等部	・学部内及び関係機関との情報交換・連携 ・「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取組み ・教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処	・職員の情報交換、連携については高等部全体の課題として日ごろから意識して取り組んでいるが、まだまだ情報共有が不十分なこともあるので、今後も情報交換、連携を意識した取り組みが必要である。医療センターや関係機関との連携はおおむねできている。 ・生徒の実態が多様化しているため、生徒との関わりを通して、それぞれの個に応じた指導・支援を模索しながら取り組んでいる。今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・感染予防対策の消毒作業も職員の中で定着しており、迅速に教室の環境整備に取り組むことができている。事務処理に関しても、おおむね期日を守って正確にできている。	・保護者や病院、関係機関等から得た情報を、グループだけでなく学部全体で共有できる体制をさらに強化する。 ＊職員が集まって生徒のことについてざっくばらんに話ができる環境づくりを行う。 ・目標や課題を明確にできるように、生徒との関わりを深めながらアセスメントに取り組む。 ＊実態表に記入した内容をグループ内で共有、連携して指導や支援に生かす。 ・教室環境や衛生・安全対策は今後も継続する。 ＊事務処理に関しては、年々増大する傾向にあり、必要なものを取捨選択する必要がある。